



技術を開発し、農地で成長したナナカマドの切り枝は美唄ブランドとして道内外に出荷されています。

◇雄花の観察によってシラカバ花粉の飛散数を予測する

シラカバ花粉症対策のため、カバノキ属樹木（シラカンバ、ウダイカンバ、ダケカンバ）の雄花の着花状況と翌春の花粉飛散数との関係を調査しました。その結果、枝先50cmの雄花序の数と着花率の積を用いると翌春の飛散数を予測できることがわかりました。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics/topicsh16.htm>

\*\*\*\*\*

■ホームページの紹介・・・北海道シラカバ花粉予報

\*\*\*\*\*

【2009年北海道シラカバ花粉予報】

上記のグリーントピックスNo. 40で紹介している研究成果を用いて、2009年のシラカバ花粉飛散数を予測しました。その結果、札幌市と函館市が「非常に少ない」、旭川市が「非常に少ない～少ない」、帯広市が「少ない～普通」となっています。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

<-2009年北海道シラカバ花粉予報->

<http://www.fri.hro.or.jp/sirakabayoho/sirakabayoho.html>

\*\*\*\*\*

■森とみどりのQ & Aで解決！・・・河畔林の機能

\*\*\*\*\*

【Q】河畔林はなぜ必要なのでしょう？

【A】河畔林には、周辺の都市や農地から流れ込む化学物質や土砂などを捕捉する緩衝帯としてのはたらきがあり、日陰をつくり水温を上げない、落ち葉や倒流木の供給により水生生物の餌や住みかを提供するなど生態学的に重要な機能もあるからです。大きくわけて以下のような機能があります。

1. 日射遮断：特に冷温性のサケ科魚類などにとって重要
2. 有機物供給（落ち葉、落下昆虫）：川から海まで含めた水生生物の餌として
3. 倒流木供給：河川微地形をつくり河川生物の住みかを提供
4. 細粒土砂の捕捉（濁りの防止）
5. 栄養塩の除去（水質浄化）
6. 野生動物の生息場（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫…）

<-森とみどりのQ & A詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/q&a/search.asp>

\*\*\*\*\*

■今日の達人のささやき・・・森林環境部流域保全科長 長坂 有

\*\*\*\*\*

雪国では春の融雪増水によって、多量の有機物や土砂が森から海へ流れ出ていきます。これらの物質が沿岸の生物にどのように影響をおよぼしているのかについては、実はまだ未解明な部分が多く、研究の途上にあります。昨年秋発行したパンフレット「森と川と海の生き物たちのつながり」では、私たちが水産関係の研究者と協力して明らかにした、落ち葉からサクラマス、カレイへの食物連鎖や、逆にサケが遡上して陸にもたらず栄養について紹介しました。川は、森と海をつなぐ物質循環の経路であるとともに、様々な生き物がそれらを利用、消費して生活する場であるということを頭の片すみにおきながら、近くの川を訪ねてみてはいかがでしょうか。

////////////////////////////////////

■発行・編集

北海道立林業試験場  
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ

企画指導部森林情報室情報管理科  
電子メール [madmin@hfri.pref.hokkaido.jp](mailto:madmin@hfri.pref.hokkaido.jp)

■記事の取り扱い

北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することは  
ご遠慮ください。

////////////////////////////////////